

## 戒嚴中の心得

## 戒嚴中の心得

# 白和雨爾時報

---

NOTÍCIAS DO BRASIL

Publicado semanalmente  
—  
**Rua Conselheiro Furtado**  
No. 89 :  
**S. Paulo, Brazil**  
Proprietário e editor  
**Seisaku Kuroishi**  
  
Assignaturas  
por Anno \_\_\_\_\_ 10\$000  
,, Semestre \_\_\_\_\_ 5\$500  
,, Mez \_\_\_\_\_ 1\$500  
,, Semana \_\_\_\_\_ \$800

精神を集録する可きものとなすの如きに、主として全般に亘る主要の業界にして、全く其の運営をなすにあつた。凡る成功せる獨逸の實業家たる者には、製造人にせよ又は貿易商にせよ、盛夏の數週間或は旅行の途に上り、或は海滨、湖邊又は山中に赴く事があるが、彼は冬季に第二の休暇を取る道を見出さぬ而して、週末休養の制度は彼等に於て國民的萎靡を弱めの徵候と見るのである。年中十九ヶ月彼は工場商店又は帳場に詰まり、而かも其の奮闘生活を天然のままに終局の目的を成就する爲めに毫も之を緩和す可きにあらずと思惟するのである。獨逸の制度は彼等に於て最大なる工業的經營に關する権利を、其名全世界に知られる一人の権利は、最も堅牢のものであるが、近頃左の如く言つた、「五年間自分は何人にも遅れず、我が工場に來りて而して夕刻退去するのには最後であつた」と是れは必要の休息時間を含め、平均一日十二二時間の勤務であつたことを意味する。而して彼は歐洲に於ける同様の事業中も大にして且つ最も繁昌する企業の一を管理し、ありといふ事實を以て彼の賞譽となして居る。されば會社又はシンヂゲートに屬するものでないものである。

## 貿易發展上の相 本設備（下）

# 貿易發展上の根 本設備 (下)

精神を集録する可きものとなすの如きに、主として、人生主要の業務にして全く其の外のものである。凡る成功せる獨逸の實業家は、製造人にせよ又は貿易商にせよ、盛夏の數週間或は旅行の途に上り、或は海滨、湖邊又は山中に赴く事があるが、彼は冬季に第二の休暇を取る道を見出さぬ而して週末休養の制度は彼等に於て國民的萎靡を弱の徵候を見るのである。年中十九ヶ月彼は工場商店又は帳場に詰切り而かも其の奮闘生活を天然自らの事なし終局の目的を成就する爲めに毫も之を緩和す可きにあらずと思惟するのである。獨逸に於て最大なる工業的經營に關する一人の権梁は其名全世界に知られる居るが近頃左の如く言つた、「五十年間自分は何人にも遅れず、我が工場に來りて而して夕刻退去するの最後であつた」と是れは必要の休息時間を含め平均一日十二二時間の勤務であつたことを意味する。而して彼は歐洲に於ける同類の事業中最も大にして且つ最も繁昌する企業の一を管理し、ありといくふ事實を以て彼の賞譽となして居る。されば會社又はシンヂゲートに屬するものでないものである。

▼此氣概あり以て天下を横行すべし

の平生をトするに足るのである。等は二食と稱しても其の食する分は多大であるから實際三食するにして多くの差異はない。是は獨逸の名脅と言へば名脅であるが實際彼等が如何に衛生の原則を斷行するに勇にして而して胃腸を強健にして力を保存すると同時に食事に消費する時間を節約し以て之を勤務に充に忠實であつたかを證明する者である。

一日のうちの主食事の度數は全く習慣によることで生理上必ずもしも三食を要する譯ではない。昔時のペルシャヤ人等は一日一食で随分うの盛時にあつて勇敢なる國民であつた。されば有名なる實業見習生が海外に滞在する間は一刻千金の價があるから三食どころを二食にし二食のごころを食事にして事務を練習する者は天下に聞かれる覺悟である。而して戰前英國の諸會社工場に歓迎された在留した獨逸の青年祝祭員又は練生に此の氣概のあつたことが即ち谷川君の通信にはの見ゆる。又前英國の諸會社工場に歓迎された獨逸の青年は有する獨逸の青年は國語の素養を有する獨逸の青年は下宿屋に於て甚だ不評判を極めたのである。而して三十年前スコットランド人の一手專賣であつた南米ラジルの珈琲貿易を奪ひ去つて此同一の青年なることが了察せらるるのである。後進國民であつた獨逸商人の爲めめたるも此の如き見習青年の忍耐勤勉によつたのである。

▼工商經營上英獨の優劣

○伯國歌

## 衛生講話

胃腸の養生に就て(續)

醫師 高岡専太郎述

(三) 胃腸と傳染病  
△傳染病の多數は口から進入するの  
は事實であるチブス、赤病、コレラな  
どは其一つである然し胃腸が健全で  
あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して  
終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら  
して子供のある、例令胃液中の鹽  
酸の如きは弱いのである、胃が弱つて  
△鹽酸の分泌が減少するか無暗と大  
食して鹽酸の餘分が無くなると細菌  
が容易く繁殖して病氣を醸す事となる。  
丁度守備兵の居らぬ城廓と同じ  
になつて終ふのである、され故常に  
崩壊を免全にして置く事は  
△積極的傳染病の豫防法  
のである勿論流行時に生水、生物を  
喰はぬ様にして細菌を口から入れぬ  
様にする方法も必要の事ではあれど  
年中實行する事は不可能であるから  
日常注意して胃腸を丈夫にして置く事  
は不慮の災害を豫防する良策であ  
(五) 肺結核と胃腸  
△肺結核は恐ろしい病氣だ 戰争よ  
りも却て死者が多いと云われる傳  
染病より尚よ以上死亡數が多い、  
社會衛生の上から大變八ヶ間敷い問  
題にはなつてゐるが初期の結核病者  
を發見して全く社會から隔離するこ  
いふ事は一大難事で殆んど不可能で  
あるから結核の豫防などは不完全た  
るを免れぬ、従つて吾々はたまには  
△結核菌を吸ひ込む位の事は覺悟  
してからねばならぬ、殊更耕地で  
は塵埃が多い、土地が高い爲め朝  
夕の氣候の變化が烈しい、と云ふ事は  
氣管枝や肺に不良の條件で、換言す  
れば結核に罹り易いのである、され  
ば結核の根治藥と云ふ者は未だ出  
來てをきらぬ、あらゆる注射療法など  
も大した効果が無い一番効果のあの  
△氣候療法と禁養療法だと云つて  
を近頃日本に澤山出来る様になつて  
いた結核療院などは此點に向つて設  
備を整へた者に過ぎないのである。

夫でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。  
△結核菌は比較的弱い細菌で  
胃腸とは密接の關係がある。  
胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が  
あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて病氣を起さぬ程度に發育せぬ  
終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら  
して子供のである、例令胃液中の鹽  
酸の如きは弱いのである、胃が弱つて  
△鹽酸の分泌が減少するか無暗と大  
食して鹽酸の餘分が無くなると細菌  
が容易く繁殖して病氣を醸す事となる。  
丁度守備兵の居らぬ城廓と同じ  
になつて終ふのである、され故常に  
崩壊を免全にして置く事は  
△積極的傳染病の豫防法  
のである勿論流行時に生水、生物を  
喰はぬ様にして細菌を口から入れぬ  
様にする方法も必要の事ではあれど  
年中實行する事は不可能であるから  
日常注意して胃腸を丈夫にして置く事  
は不慮の災害を豫防する良策であ  
(五) 肺結核と胃腸  
△肺結核は恐ろしい病氣だ 戰争よ  
りも却て死者が多いと云われる傳  
染病より尚よ以上死亡數が多い、  
社會衛生の上から大變八ヶ間敷い問  
題にはなつてゐるが初期の結核病者  
を發見して全く社會から隔離するこ  
いふ事は一大難事で殆んど不可能で  
あるから結核の豫防などは不完全た  
るを免れぬ、従つて吾々はたまには  
△結核菌を吸ひ込む位の事は覺悟  
してからねばならぬ、殊更耕地で  
は塵埃が多い、土地が高い爲め朝  
夕の氣候の變化が烈しい、と云ふ事は  
氣管枝や肺に不良の條件で、換言す  
れば結核に罹り易いのである、され  
ば結核の根治藥と云ふ者は未だ出  
來てをきらぬ、あらゆる注射療法など  
も大した効果が無い一番効果のあの  
△氣候療法と禁養療法だと云つて  
を近頃日本に澤山出来る様になつて  
いた結核療院などは此點に向つて設  
備を整へた者に過ぎないのである。

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

あれば消化液は一種の殺菌作用を持  
つて居て進入した細菌を全く殺して

終ふか病氣を惹き起さぬ程度に弱ら

して子供のである、例令胃液中の鹽

酸の如きは弱いのである、胃が弱つて

△營養療法を行ふのには、胃腸が丈夫  
でなければならぬ、或博士は肺結  
核治療の眼目は消化器即ち胃腸を強  
健に保持して行く事であると云つて  
いる、實際初期の結核は澤山飯を喰  
つてをれば治癒する、斯様に肺結核と  
は胃腸とは密接の關係がある。

胃腸が健全で、胃腸が弱ると胃腸が

○日本近信

日本近信

## 前代未聞の暴風

### ▲四十三水突の記録を作成

### ▲東本願寺側の還俗觀

を  
そらまう  
じいさ  
この意思があるならば宜しく其意思  
里の海上を北東に通過し同夜半に東  
海道濱松靜岡の中間に上陸し依然進  
路を北東に取りて東京を  
なかせんだう

▲尊重して、還俗の自由を與へる方が、當然で、あらう。若し自分が本山當局に申すが強ては、殺を製ひたるまでは通知ありしもうちだ。

止しない、還俗が事實として現はれた。以て電信不通となりて詳細を知り難い。されば末寺の或一部殊に復職黨の人々は騒ぎもしやう失望もしやうが一般前十時頃には仙臺附近を荒らす。華山電線によるところ影響と見へば、元来本に判看する見入よりヨウリ別に

して民本主義に傾き信仰の中心たる島沖に進出すべき推定なり隨つて

人物を失つて居る従つて光瑞師に一日午後は奥羽地方より  
山の人心が集まつてゐるのでもなく  
山の人心が集まつてゐるのでもなく  
さよなら去主二言仰の中心を集めてゐる可し之ニ又關東以西より全く至  
▼北海道へかけて暴風雨最中なる

もしも我浮城の仕事でなく況んや管長代理などで候恢復して秋晴の爽快なる空を見つゝあり此度の暴風はの強威に於て甚難である若

し光瑞師か  
在職中に還俗するといひ出した  
明治三十五年九月二十八日關東方面  
を襲ひたる暴風こそ伯仲の間に在るも  
のなら或は大問題となつたかも知れ  
にて氣壓の示度低く一日午前三時

が師は今は日本主の職にもあらず且半東京に於ける氣壓一四、六ミリの外國に居住してゐるので從つに下り實に中央氣象臺創立（明治八

事なれば西本願寺の疑獄事件もすでに前代未聞で一派に法主がなく法主六時より一日午前六時までの量九二  
比較すれば多からざるも三十日前台する云ふことより一時は一步而一十全二口

前代未聞であるからさう驚くには當ける觀測の經過を記せば三十日午後ヨリ一ヶ月が経たる。二月三日午後二時半合戦の際に、波打瀬船の船頭が門木を船底に落して死んだ。その際、船頭の妻が船底に落つて死んだ。この事件は、前代未聞で、其餘波で起る紛擾も亦皆、二の割を示したり最後に東京に於ける。

るまいソコで光瑞師が復職すれば喜十時に於ては氣壓七四六、七風向北東、風力六、一突米なりしが漸次狂んで迎へねばならぬが今日の如く蛇烈<sup>ハリ</sup>を加へて夜半<sup>よま</sup>氣壓七四〇、八

生殺しの様な状態に置かずには、風向南東に變じ風力六、三となり一  
俗さして十分同帥の手腕を振はす方 日午前一時

か遙によいと思ふこれを宗門の上よ  
り見るも光瑞師の歸宿後決して信仰  
を改変<sup>アキラハタフ</sup>つこひかするこ  
に刻々に氣壓低下し向南東な  
り同三時三十分には風力四十三米空  
に達し遂に氣象臺の觀測風車を破壊

を立場したり、又は併着する形をもつてゐる所ではなくいはゞ外護の地位に立つのであるから光瑞師の如く精力

（中央氣象臺岡田博士談）  
此盛の人が外に立ちて一山の保護（銅膏に歸したるに乍前）に留まつたまへ  
の涼風に務められることは寧ろ  
歓迎すべきことであらう。○東本願寺  
演法主令弟宣暢院蓄師は語れり  
▲ 東京市の慘状  
△ 水中に夜明しする五萬人  
△一度に一個師團分の炊出

## ▲東京市の慘状

が出来るご生徒の机で、兵隊さんが武骨な手で握飯を作り、澤庵梅干を添へて皮に包む。一方校舎内には二千餘の門間附近の一尺に餘る海水は夜に至るも退かず、宛然たる水上の町と化して去つた避難所は此處も亦慘状を呈してゐた。

6 ブラジル語講習録

ブラジル語講習録

卷之三

註解 1. Havia は ha の過去の形。Lá longe 第二課にあり  
如くあちらの遠くにの意にて lá は普通 alli より遠くを指す。Ialavar 洗  
に行きましたなれど前頁の説明の如く常に洗濯に行き居りしの意あり  
achô rio の小さきもの。Roupas 衣類。Andava procurando 探しつゝ歩  
ました。即ち取りに行き居たりの意。Vá procurar o tinteiro. 若くは  
buscar(探す) o papel. は何れもインキ壺を取りに行け。紙を取りに行  
なさいの如く。

2. Lavando, chegando, procurando 及び 3 の correndo, 4 の nascendo は何れも第四課の註(2)の説明にある如く動作の繼續を示す形。何々しつゝにて夫れ々々 lavar, chegar(到着する) procurar, correr(走る), nascer(生る)の言葉の變化せるものである。Um dia, 或日。Que vinha o que は、する(せる)所の譯すべし。é t'arna da 表面に。

3. Para perto de.....の近くの方へ。pertinho は perto の語尾の o を取り去り inho を附したものにて perto の意を強めたるものなり。Apanhou-a の語尾の a はそれをと云ふ代用語にて此場合桃の代りに用ひらる。若し代りをされる語が o で終る男性の語なる時は a を o となすべし。Todo contente を muito contente となすも同意。Para casa 自分の家の家の方へ。此場合冠詞を用ひざるものとす。然し私の叔父の家へ

は para a casa do meu tio. なり。Eu vou para casa. 私は家へ歸ります。  
 4. Passados の代りに D'ahi a alguns dias. 即ち ahi 其時から數日。d'ahi は de と ahi の縮せるもの。

蜜柑を割りました)の場合にはseを附せず。





